

# なぜ高い？福井県の幸福度ランキング

｜ 因子分析を用いて客観的データから  
｜ 福井県の幸福度が高くなる潜在要因を抽出

令和6年6月

福井商工会議所  
持続可能な社会共創委員会



## 1. はじめに

---

一般財団法人日本総合研究所が発刊した「全 47 都道府県幸福度ランキング 2022 年版」において、福井県は 2014 年版、2016 年版、2018 年版、2020 年版に続き、5 回連続の総合 1 位を獲得した。福井県には、繊維や眼鏡などの製造業を中心に安定した雇用環境があり、働く女性の割合や共働き率も高く、経済的に安定している。また、三世代同居も多く、子どもは親や祖父母に見守られながら健全に成長できる教育環境が整い、学力・体力の高さにつながっていることが大きな要因である。このような環境で育った優秀な人材がまた福井県を支えるという好循環が、「幸福度日本一ふくい」の基盤になっている。

しかしながら、各種県民アンケートによると、幸福度ランキング 1 位なのに幸せの実感は薄いといった意見が多い。これには、幸福度の測り方に主に 2 つの方法があることが影響している。1 つは、幸せかどうかを住民に直接聞く方法であり、主観的な指標といえ、客観的な指標ではわかりにくい住民の幸せの実感をつかむことに役立つ。ただし、主観的な指標は個人を取り巻く環境に左右され、その評価にはブレが生じることが多い。もう一つの手法は、「1 人当たりの居住面積」「1 人当たりの医師数」など幸せに関係がありそうな指標を集めて合成する手法で、客観的な指標と呼ばれている。国連が毎年 3 月に発表する国別の幸福度ランキングや、日本総合研究所が公表する都道府県別の幸福度ランキングはこの手法である。

本委員会では、後者である「客観的な指標」に着目し、福井県の幸福度が高い理由について、単純集計ではわからない潜在的な要因を探るため、多変量解析の一種である「因子分析」という手法を用いて独自に考察した。この結果を用いて、客観的と主観的のギャップについて検証し、福井県の幸福度について改めて考えることで、産業や観光の活性化、新たな行政施策について議論を深めるきっかけになることを期待する。

## 目次

---

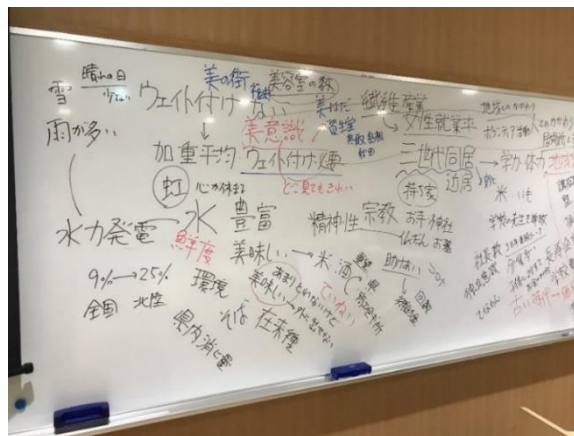
1. はじめに
2. 幸福度ランキング独自調査のきっかけ
3. 因子分析について
4. 指標抽出の手順
5. 結果からみえたもの
6. まとめ
7. 付属資料

## 2. 幸福度ランキング独自分析のきっかけ

本委員会では、「全47都道府県幸福度ランキング（以下、幸福度ランキング）」において、2014年版から2022年版（2年毎に発刊）まで福井県が5回連続で総合1位となった要因について、客観的なデータから分析・検証することを試みた。そのきっかけとして、幸福度ランキング2022年版より追加販売された「分析ツール」の存在である。この分析ツールは、幸福度ランキングの算定に使用した数値データを全て収録しており、地域自らが独自の幸福度を分析して、政策課題や効果の把握、地域の魅力発信などに活用することが可能となった。このデータをもとに、本委員会ではワーキンググループを開催し、大学や行政、マスコミ関係者などの有識者をメンバーに加え、幅広い分野から意見交換を行っている。

### ワーキンググループ

目的	幸福度ランキングで福井県の幸福度が高い理由を分析・検証する	
委員	委員会メンバー	小川明彦、田中香苗、塚本明、小川慎二郎、横川和史、小出賢、富田弘之、中山浩行、高島勝之、竹内邦夫、江川誠一（福井大学 国際地域学部 講師）
	オブザーバー	山口 剛（株福井新聞社 報道部長） 鍋嶋邦広（(一社)DMOさかい観光局 前事務局長） 大森望央（amite(株)） 飛田章宏（福井県未来創造部 幸福実感ディレクター）
内容	第1回（5月11日） ▶ 幸福度が高い理由や裏付けとなる指標の抽出 第2回（6月26日） ▶ 幸福度に影響を与えそうな独自指標の検討 第3回（7月27日） ▶ 因子分析の結果に関する意味付け	



### 3. 因子分析について

福井県の幸福度について検証にあたり、因子分析という統計手法を採用した。この分析手法は、たくさんのデータの背後にある潜在的な要因（因子）を発見するための方法であり、複雑な現象を単純な原因で理解するのに適している。

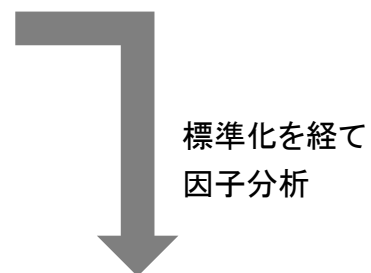
まず、簡単なモデルで説明する。ある学校の生徒の5教科分（数学、理科、英語、社会、国語）のテスト点数のデータがあるとする。「数学の点数が高い子は理科の点数も高い傾向がある」といったように、5教科の点数はそれぞれ関連し合っているのは想像が付きやすい。しかし、どの教科とどの教科がどれくらい関係し合っているかはわからない。2教科ごとの相関を調べるのも良いが、5教科まとめて相関を調べる際に因子分析が役立つ。

具体的な手順については省略するが、仮に、生徒100人に対し5教科分の相関関係を調べるために因子分析を行ったところ、図1のようなグラフを得られた。これによると、数学と理科に強く反応する要因は「因子1」であることがわかる。例えば、「因子1：論理的な思考力」と解釈すると、一定の理解を得られる結論に導くことができる。

ただし、この因子1がどのような意味を持っているのかは自力で考察する必要があり、主観に基づいて行われるため、人によって違った意見になることもしばしばある。そのため共通因子の持つ意味を考察する時は、なるべく多くの人と結果を共有して慎重に意味付けを行っていく必要がある。

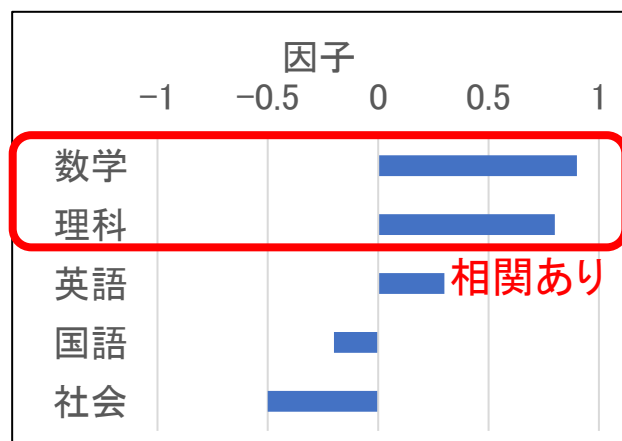
(簡単な事例)

生徒	数学	理科	英語	国語	社会
A君	80	85	70	75	80
B君	90	95	75	80	95
C君	95	100	75	55	60
D君	80	85	60	80	55
E君	55	60	80	95	85
F君	40	50	65	75	90



『論理的な思考力』が  
影響している？

潜在的な要因(因子)



## 4. 指標抽出の手順

ワーキンググループでは、はじめに、幸福度ランキングを構成する 80 指標の中から、「県民所得」や「健康寿命」、「持ち家比率」など、福井県の幸福度に影響を与えそうな重要な 15 指標を抽出。次に、委員の意見をもとに、「通勤時間」や「三世代同居」、「平均消費性向」などの 21 指標を独自に追加し、合計 36 指標を用いて因子分析を行った。なお、因子分析の事前準備として、ばらばらの単位を揃える標準化の作業も行った。

### ①幸福度ランキングの 80 指標から 15 指標を抽出

→絶対に外せないもの（重要な指標）を中心に

県民所得、健康寿命、体育・スポーツ施設数、持ち家比率、生活保護受給率、  
子供の学力、子供の運動能力、不登校児童生徒率、女性の労働力人口比率、  
合計特殊出生率、勤労者世帯可処分所得、食料自給率、待機児童率、  
自殺死亡者数、刑法犯件数

15 指標

### ②独自指標を追加

→ワーキンググループの意見からセレクト

通勤時間、三世代同居、平均消費性向、居住費割合、  
電気料単価、電力消費量、女性の美容室客単価、お年玉総額、  
自家用車保有率、調理済食品家計支出、食洗器普及率、温水便座普及率、  
年間降水量、60 歳以上就業率、社長輩出率、米消費量、老舗企業数、  
寺院数、住宅の面積、年間日照時間、朝刊世帯普及率

21 指標

標準化前

幸福度ランキングの15指標

WGが独自に抽出した21指標

都道府県	県民所得	健康寿命	...	子供の学力	女性の労働人口	通勤時間	三世代同居	電力料単価	...	年間日照時間	老舗企業数
単位	千円	歳		点	%	分	人口100人あたり	円		時間	人口10万人あたり
北海道	2,742	73.3	...	37.6	50.2	30.5	6.8	29.5	...	1,718	17.2
青森	2,507	73.8	...	39.2	51.6	29.0	21.6	26.4	...	1,589	22.0
...			...						...		
富山	3,398	74.4	...	39.6	54.7	31.0	24.8	21.3	...	1,647	48.8
石川	3,022	74.4	...	41.6	55.5	31.0	17.5	21.3	...	1,714	41.0
福井	3,279	74.4	...	40.7	56.7	29.5	28.0	21.3	...	1,653	66.2
...			...						...		
沖縄	2,390	73.8	...	36.7	13.9	32.0	8.8	27.0	...	1,727	1.1



標準化 (ばらばらの単位をそろえる作業)

6

標準化後

幸福度ランキングの15指標

WGが独自に抽出した21指標

都道府県	県民所得	健康寿命	...	子供の学力	女性の労働人口	通勤時間	三世代同居	電力料単価	...	年間日照時間	老舗企業数
北海道	-0.56	-1.45	...	-0.87	-1.38	-0.66	-1.25	2.50	...	-1.08	-0.87
青森	-1.07	-0.40	...	0.80	-0.68	-0.91	0.89	0.87	...	-1.78	-0.52
...			...						...		
富山	0.85	0.61	...	1.22	0.52	-0.58	1.36	-1.79	...	-1.46	1.41
石川	0.44	0.69	...	3.31	1.55	-0.58	0.3	-1.79	...	-1.10	0.86
福井	0.59	0.65	...	2.37	2.48	-0.83	1.82	-1.79	...	-1.43	2.06
...			...						...		
沖縄	-1.32	-0.55	...	-1.81	1.66	-0.42	-0.96	1.19	...	-1.03	-2.03



因子分析

## 5. 結果からみえたもの

### 因子1：家族、地域コミュニティのつながりの濃さ

因子分析の結果、福井県の幸福度に影響を与える要因として因子1を導いた。因子1に強く反応する指標として「三世代同居」や「食料自給率（カロリーベース）」、「年間降水日数」などが挙げられる（図1）。また、都道府県別の因子得点（P.11）では、東北や北陸、山陰地方で得点が高い。これをもとに議論したところ、日本の原風景である田舎、地域で自給自足が可能、天気が悪いことにより家族で過ごす時間が増加、郷土の新聞がまとめ役、といったことがイメージできることから、因子1は「家族、地域コミュニティのつながりの濃さ」と位置付けた。

### 因子2：ゆとり生活構造

同様に導き出した因子2について考察する。因子2に強く反応する指標として「60歳以上就業率」「美意識（美容室1回あたりの単価）」「温水便座普及率」「勤労者世帯可処分所得」などが挙げられる（図2）。因子得点では、北陸地方のほか山梨県、長野県、岐阜県など本州の中心部が高く、南北に離れるほど低い傾向がある。これをもとに議論したところ、人口が少ないと有利なことが多い、仕事は大勢で美味しいものは少人数で、生活費はかかりにくい、女性や高齢者の就業率が高く家族の所得が多い、といったことがイメージできることから、因子2は「ゆとり生活構造」と位置付けた。

### 因子3：（参考因子）

因子3に反応する指標として「合計特殊出生率」や「社長輩出率」などが挙げられる（図3）。因子得点では、山梨県や南九州、四国で得点が高く、都市部で低い傾向にある。ただし、因子3については、寄与率\*が8.0%と低いため、因子1や因子2と比較して解釈が難しく、的確なタイトルを付けることが困難だった。よって因子3については参考因子とし、以下は、議論の中で挙げられたキーワードを一例として紹介する。

キーワード：田舎の活力、チャレンジ力、負けん気、危機感、  
自立心、粘り強さ、健康長寿、自己実現 など

※寄与率とは…各因子がデータ全体に対してどのくらい関与しているか示す値



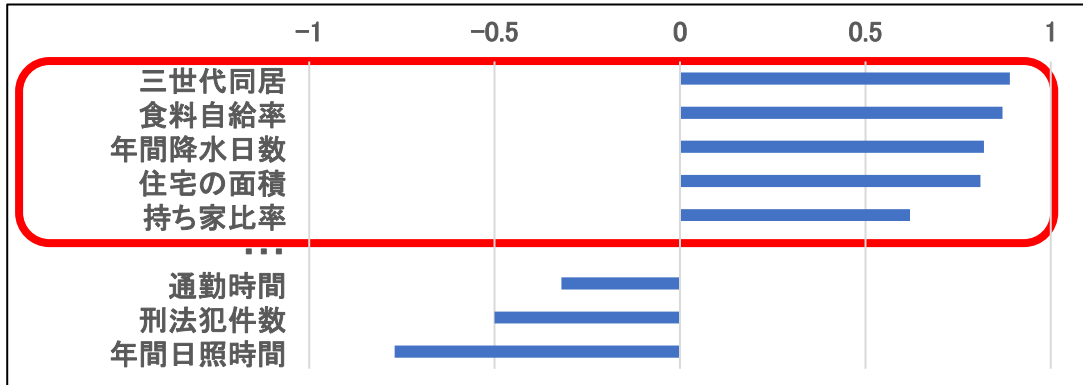
**因子1: 家族、地域コミュニティーのつながりの濃さ**

(寄与率:30.31%)



- ・日本の原風景、田舎
- ・郷土の新聞がまとめ役、都会ほど弱くなる
- ・地域で自給持続
- ・天気も悪い

(図1)



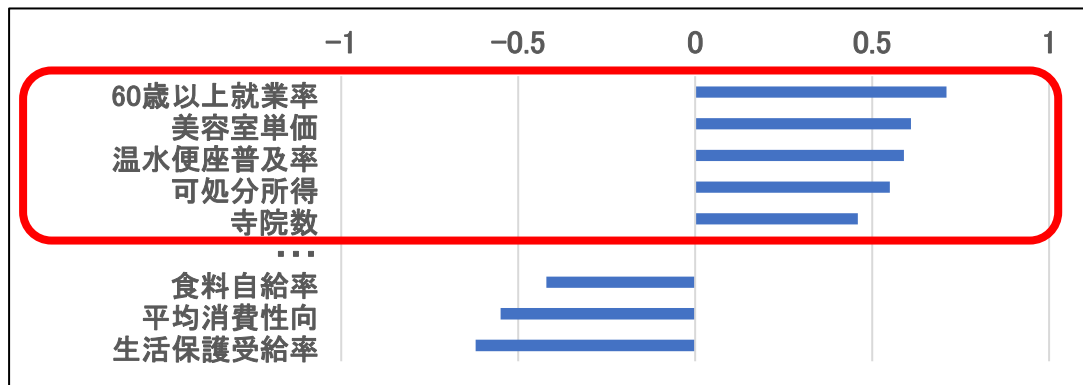
**因子2: ゆとり生活構造**

(寄与率:16.22%)



- ・人口が少ないと有利
- ・都会は一人当たり面積狭い
- ・消費性向も低い (遊びも少ない)
- ・女性、高齢者の就業率高くなる
- ・仕事大勢、美味しいものは少人数で
- ・生活費もかかりにく
- ・人口が少ないので労働人口不足
- ・所得は高くなる 稼いで使う

(図2)



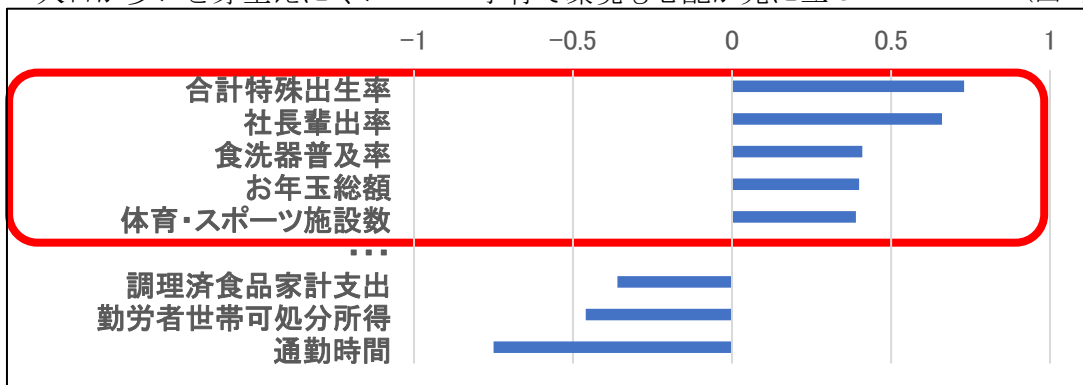
**因子3: ( 参考因子 )**

(寄与率:8.03%)



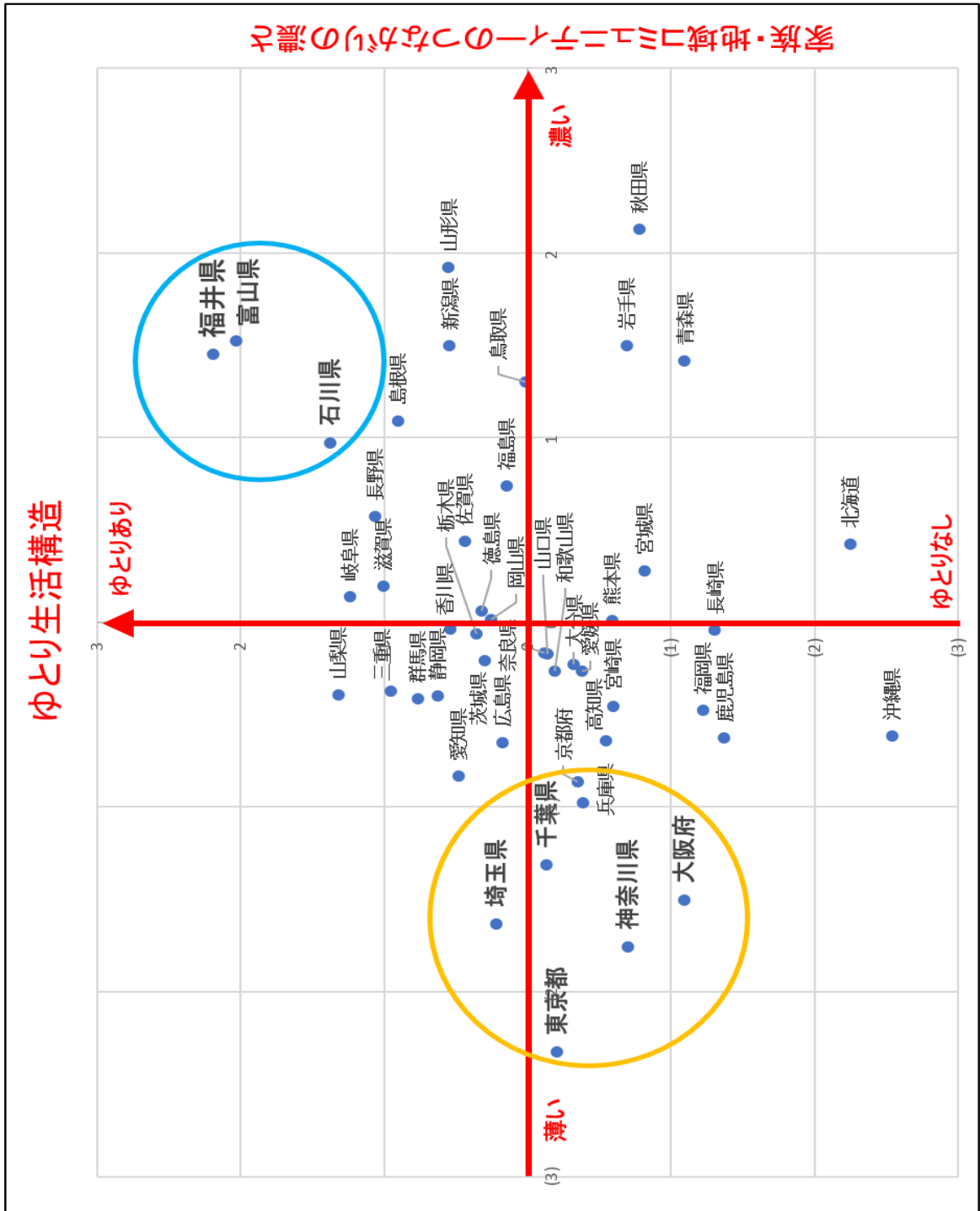
- ・都会は立地の良さでビジネスが成り立つが田舎は違う
- ・商品開発などに注力
- ・人口が多いと芽生えにくい
- ・子育て環境も心配が先に立つ

(図3)



## マトリックス分析 (因子1 × 因子2)

上記で導いた因子1を横軸に、因子2を縦軸にとって分析した (P. 10)。福井県を含む北陸3県については、右上に位置していることから、家族・地域コミュニティのつながりが濃く、ゆとりがある生活構造であることが幸福度を押し上げている要因となっている。他方で、幸福度ランキング3位の東京都をはじめとした首都圏や大都市は、グラフの左下に集中している。これについては、同じ幸福度ランキングの上位の都道府県でも、その中身を構成する要因が異なることがわかる。



因子得点グラフ

		因子1 家族、地域コミュニティの つながりの濃さ	因子2 ゆとり生活構造	因子3 (参考因子)
1	北海道	0.4226	-2.2498	0.1567
2	青森県	1.4175	-1.0941	0.1444
3	岩手県	1.4974	-0.6896	-0.1845
4	宮城県	0.2801	-0.8132	-0.4540
5	秋田県	2.1289	-0.7766	0.0057
6	山形県	1.9237	0.5499	0.0979
7	福島県	0.7381	0.1470	0.0468
8	茨城県	-0.2048	0.2990	-0.8279
9	栃木県	-0.0598	0.3530	-0.1266
10	群馬県	-0.4153	0.7647	0.2619
11	埼玉県	-1.6319	0.2201	-1.9963
12	千葉県	-1.3134	-0.1313	-2.4368
13	東京都	-2.3258	-0.2026	-1.9594
14	神奈川県	-1.7561	-0.6980	-2.4201
15	新潟県	1.4989	0.5429	-0.1408
16	富山県	1.5231	2.0302	0.2455
17	石川県	0.9719	1.3750	0.5769
<b>18</b>	<b>福井県</b>	<b>1.4494</b>	<b>2.1928</b>	<b>1.0338</b>
19	山梨県	-0.3924	1.3198	1.4673
20	長野県	0.5735	1.0635	0.7634
21	岐阜県	0.1402	1.2387	0.0291
22	静岡県	-0.4003	0.6276	0.1164
23	愛知県	-0.8322	0.4794	-0.5343
24	三重県	-0.3735	0.9527	0.1354
25	滋賀県	0.1954	1.0075	-0.6619
26	京都府	-0.8628	-0.3505	-0.8387
27	大阪府	-1.5027	-1.0913	-1.2214
28	兵庫県	-0.9784	-0.3849	-0.9721
29	奈良県	-0.1655	-0.1175	-1.8720
30	和歌山県	-0.2619	-0.1879	0.6673
31	鳥取県	1.3002	0.0151	0.5841
32	島根県	1.0915	0.9019	0.9521
33	岡山県	0.0154	0.2509	0.1325
34	広島県	-0.6503	0.1744	0.1427
35	山口県	-0.1709	-0.1372	0.6167
36	徳島県	0.0593	0.3233	0.7628
37	香川県	-0.0369	0.5366	0.8830
38	愛媛県	-0.2614	-0.3766	0.8298
39	高知県	-0.6412	-0.5483	0.8081
40	福岡県	-0.4746	-1.2245	-0.6255
41	佐賀県	0.4390	0.4353	0.8563
42	長崎県	-0.0391	-1.3051	0.3687
43	熊本県	0.0089	-0.5912	0.5836
44	大分県	-0.2275	-0.3236	1.2693
45	宮崎県	-0.4570	-0.5957	1.1965
46	鹿児島県	-0.6249	-1.3712	1.1815
47	沖縄県	-0.6140	-2.5408	0.3560

## 6. まとめ

---

本委員会では、「客観的な指標」に着目し、福井県の幸福度が高い理由について、多変量解析の因子分析という手法を用いて、その背景にある潜在的な要因を探った。その結果、因子1「家族、地域のコミュニティのつながりの濃さ」と因子2「ゆとり生活構造」が福井県の幸福度を押し上げる主な要因であると結論付けた。これらの因子は、時間をかけて作り上げた地域文化や経済構造、地政学的要因が基礎となっており、模倣困難性が高く、ブレることはない。また、因子1を横軸に、因子2を縦軸にとったマトリックス図では、石川県・富山県と福井県は同様の傾向がみられ、北陸地方の特徴を表している。一方で、参考因子ではあるが、因子3では明らかに福井県が石川県・富山県よりも高く、違いが見られた。この議論をさらに進めることで福井県の新たな幸福度の発見につながる可能性もある。

幸福度ランキングはその順位によって優劣を付けるものではなく、その本質を探ることで地域課題の解決に向けたプロジェクトを生み出すことが本来の趣旨である。今後、当委員会では、今回の分析結果を企業レベルに落とし込み、各企業や社員にとっての幸福度や経営に活かすための具体的な手法について考える。また、職場のウェルビーイングとエンゲージメントを向上させ、企業の成長につなげるために必要な施策等について関係機関と連携を図りながら議論を進めていく。